

夢の日韓トンネル建設プラン



日本と韓国を隔てる朝鮮海峡に全長二百三十

十キロの海底トンネルを建設する。夢のプランが始動しそうだ。自民党の野沢太三参院議員(写真)、トンネル族が、日韓議員連盟(会長・竹下元首相)に実現に向けての協力を呼びかけることにしたためだ。韓国の盧泰愚(ノ・テウ)大統領が先に来日した際の国会演説でこの構想に前向きな姿勢を示したことから、同議員も「ヤル気十分」(幹部)のよう。

すでに技術的に実現の見通しは立っているときれており、工費は約五兆円。実現のめどは二十年後とか



お上手が上手に



超党派議員団をひきいて訪米中の宮沢元蔵の宮沢元蔵相(似顔)が、訪米前の渡辺自民党元政調会長との会談で政権とりをにらんだ意味深長な発言をしたことが

で、「そのころには南北朝鮮の和解が成立し、東京ソウル―北京を鉄道か高速道路が結ぶ。経済的效果ははかり知れない」(野沢氏)と夢をふくらませてい

る。「そのころには南北朝鮮を聞いた渡辺氏は「オレのガラッパチぶりに嫌みを言ったのかな」と周辺にもらし、あまり効果はなかったよ。

とはいえ、これまでこういった人のもち上げ方が苦手だった宮沢氏だけに「これは政権とりへ本気だな」という声ももつぱら。

わかり、話題を呼んでいる。会談では結婚した渡辺氏の長女の話で盛り上がったというが、お聞き近くな

って何を思ったか宮沢氏、東独製品の質の悪さが、わけても極めつきは乗用車「トラバント」。

「トラビィ」というかわいらしい愛称に似ず、スタイルが悪いうえに、ボディがプラスチックでできているため衝突でもすれば、それこそ大変。しかも、けたましい音を立てるうえ、排気ガスがすぐく、スピードも出ないとあって、西側の優秀な車が入って来れば製造企業はたちまち倒産するものとみられていた。

捨てる神あれば…ベルリンの壁崩壊以来、西側を改めて驚かせたのは東独製品の質の悪さが、わけても極めつきは乗用車「トラバント」。

「トラビィ」というかわいらしい愛称に似ず、スタイルが悪いうえに、ボディがプラスチックでできているため衝突でもすれば、それこそ大変。しかも、けたましい音を立てるうえ、排気ガスがすぐく、スピードも出ないとあって、西側の優秀な車が入って来れば製造企業はたちまち倒産するものとみられていた。